

日本ではサービス経済化等の進展に伴い、就業構造も変化してきた。経済成長の鈍化、グローバル化といった環境変化の中で、日本経済が持続的に成長し、雇用と所得の拡大を実現していくためには、企業と労働者の双方が構造変化に対応することが必要である。「平成25年版労働経済の分析」では、産業の新陳代謝等を通じた競争力の強化、成長に資する人材の確保・育成などとともに、労働者の意欲と能力が発揮され、企業が活性化するための働き方の構築が必要であるという観点から分析を行った。

## 目次

### －構造変化の中での雇用・人材と働き方－

<b>第1章 労働経済の推移と特徴</b> .....	<b>2</b>
第1節 一般経済、雇用、失業の動向 .....	2
第2節 賃金、労働時間の動向 .....	6
第3節 物価、勤労者家計の動向 .....	8
第4節 労使関係の動向 .....	10
<b>第2章 日本経済と就業構造の変化</b> .....	<b>12</b>
第1節 経済成長と成長要因、生産性 .....	12
第2節 産業構造、職業構造の推移 .....	12
第3節 雇用創出・雇用消失の実態 .....	14
第4節 製造業の果たす役割と労働移動 .....	16
<b>第3章 労働市場における人材確保・育成の変化</b> .....	<b>20</b>
第1節 新規学卒採用において企業が求める人材 .....	20
第2節 日本的雇用システムと今後の課題 .....	22
第3節 構造変化と非正規雇用 .....	22
<b>まとめ</b> .....	<b>26</b>